

2021(令和3)年度
学校評価アンケート 結果と考察

葛城市立新庄北小学校

1 学校評価の目的

学校評価とは、児童がより良い教育活動を享受できるように、学校が学校としての目標や取組等の達成状況を明らかにして、その結果をもとに学校運営の改善を図るために行うものです。保護者の方々や地域の方々から学校に寄せられる期待に応え、より信頼される学校づくりを進めていくためには、学校評価を適切に実施し、効果的な公表に努めることが必要となります。学校評価の実施を通して学校にかかわる多くの人と情報のやりとりがなされ、連携を図ることにより、開かれた学校が実現されます。このことから、学校評価の目的を次の3点に整理し、より一層の学校運営の改善と発展を目指します。

- ① 学校運営の改善・・・本校の教育活動その他の学校運営について、組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 説明責任及び連携・・・学校評価の実施・結果の公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者・地域住民の方々から理解と参画を得て、その連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 教育の質の保証・向上・・・市教育委員会が学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、教育水準の保証・向上を図ること。

児童・保護者・教職員の三者に共通の内容でアンケートを実施しました。それを児童・保護者・教職員別にグラフにしました。そこでまとめた結果について読み取れたこと、対策の方向についてまとめました。

この学校評価アンケートが来年度の学校改善につながり、子どもたちの健やかな成長に、そして保護者・地域からの信頼に応える開かれた学校づくりに活用できるように全力を尽くしていきたいと考えています。

2 調査の対象

【学校関係者評価(回答者数)】

児童 224名 保護者 222名

【自己評価】

教職員 24名

3 調査の方法

質問紙による調査を実施

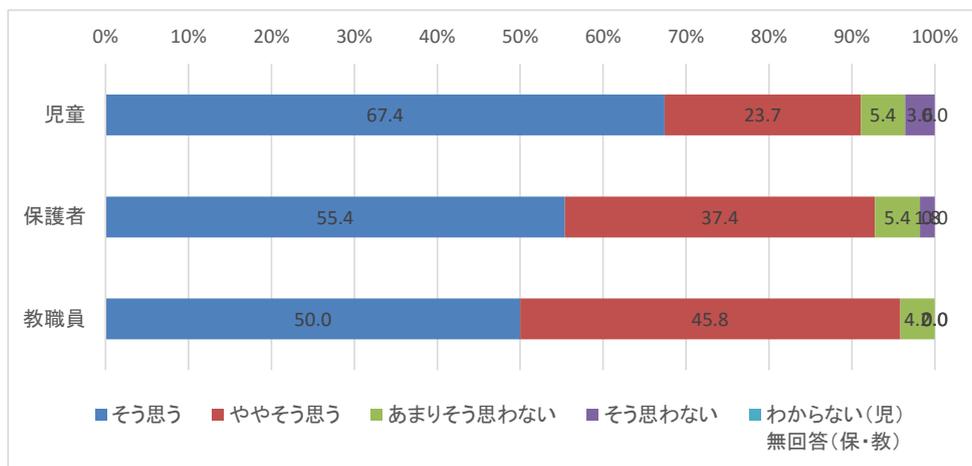
4 調査期間

2022(令和4)年1月12日～1月18日

5 調査結果と考察

①【学校生活について】

対象	質問事項
児童	学校は楽しいですか。
保護者	お子さんは、楽しく学校生活を送っていると思いますか。
教職員	児童は、楽しく学校生活を送っていると思いますか。

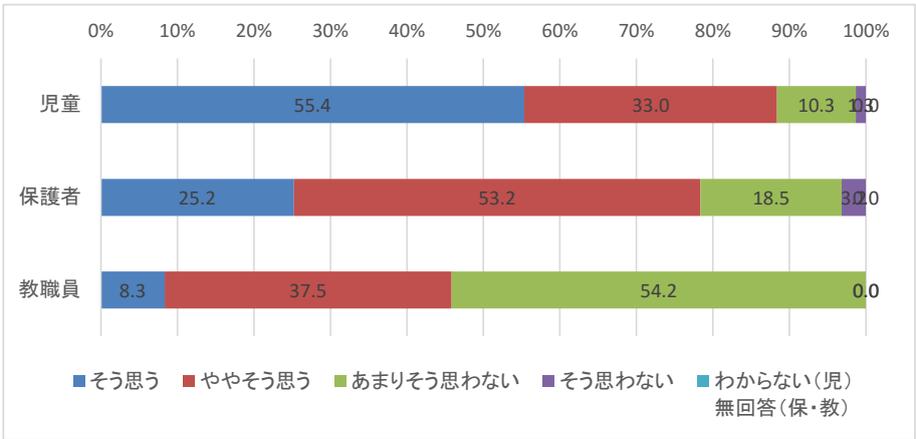


学校生活については、児童・保護者・教職員とも、昨年度よりやや低下傾向にある。これは、感染拡大防止のために、さまざまな活動が制限されていることが一因であると考えられる。しかしながら、そのような状況の中でも、9割の児童が楽しいと感じている。子どもたちが休み時間の過ごし方を工夫したり、教師が学級会活動などで楽しめる活動を取り入れたりするといった楽しさはもちろん、ありがとう集会などの行事をリモートでおこなったり、学ぶ楽しさ、わかる喜びを感じられるような授業づくりを工夫したりするなどしてきた結果であると考えられる。

一方、否定的な回答をした児童が1割程度いることは看過できない。日々の諍いやもめ事などを0にすることはできないかもしれない。しかし、それらを見逃さず声をかけたり、よりよく解決する方法を子どもたちに寄り添いながら共に考えたりすることで、子どもたちにとって学校が、安心して行ける、行けば楽しいことがあると思える場となるように、日々の教育活動を進めていきたい。

②【あいさつについて】

対象	質問事項
児童	あいさつや、えしゃくがしっかりできていますか。
保護者	お子さんは、あいさつの習慣が身についていると思いますか。
教職員	児童は、あいさつの習慣が身についていると思いますか。



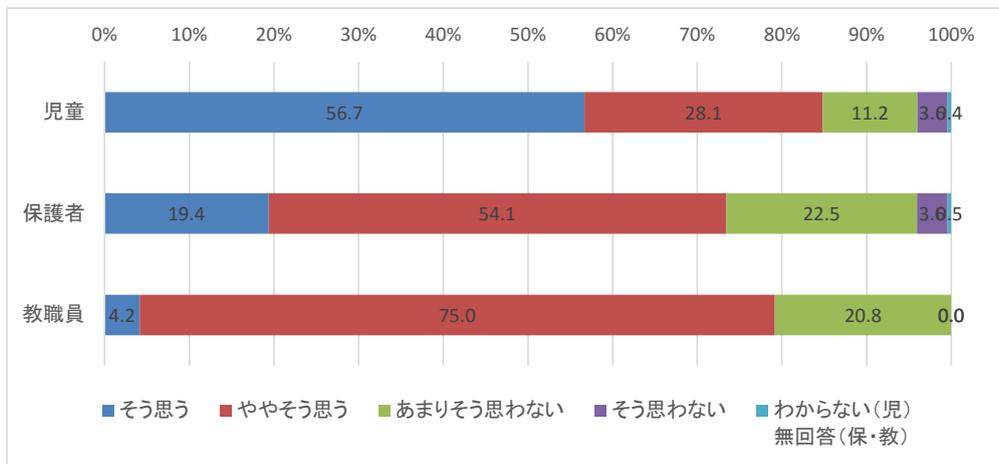
あいさつについては、保護者・教職員の評価が減少する一方、児童の肯定感は一貫して上昇している。感染予防対策のため、日々マスクを着用し、大きな声を出さないようにといった制限があるが、その中でも、子どもたちはしっかりとあいさつができていると考えているのであろう。

しかしながら、保護者、教職員の思いとは隔たりがある。これは、児童のあいさつへの評価が、教室で先生とあいさつができている、あいさつされたときにはしっかりと返しているといった見方であろうと推察される。実際、教室や廊下で、朝児童が元気よくあいさつする姿を見かけることはある。しかしながら、教師・保護者は、声の大きさだけでなく、例えば登下校中、地域の中でも積極的なあいさつができる児童の姿を求めている。

学級会活動などを通して児童に自分のあいさつをするときの姿を見つめ直させるとともに、教師が進んであいさつをしたり、気持ちの良いあいさつができる児童に一声かけたり、ほほえみを交えてあいさつすることの気持ちよさにふれたりしながら習慣をしっかりと身に付けさせたい。

③【ねばり強さ】

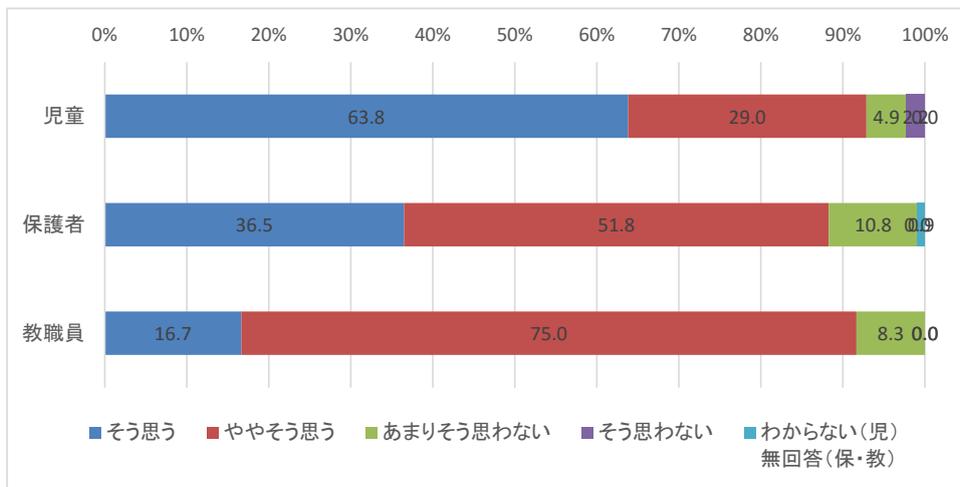
対象	質問事項
児童 保護者	目標にむかってねばり強く取り組んでいますか。 お子さんは、自分で決めた目標にむかって、ねばり強く取り組むことができていると思いますか。
教職員	児童は、自分で決めた目標にむかって、ねばり強く取り組むことができていると思いますか。



教職員と児童の肯定的な回答の合計に、そう大きな隔たりは見られないが、自信を持って「そう思う」と回答した割合の開きはたいへん大きい。コロナ禍において、行事などが実施できず、これまでのように目標をもって取り組んだり、取り組ませたりする機会が減少したことも一因としてあげられるのではないか。日々のさまざまな場面で、常に目標をもって取り組む大切さを伝えたり、また、達成できたと思われる事柄についてしっかりと評価したりすることで、児童の自己肯定感を高めていきたい。

④【認め合い・協力】

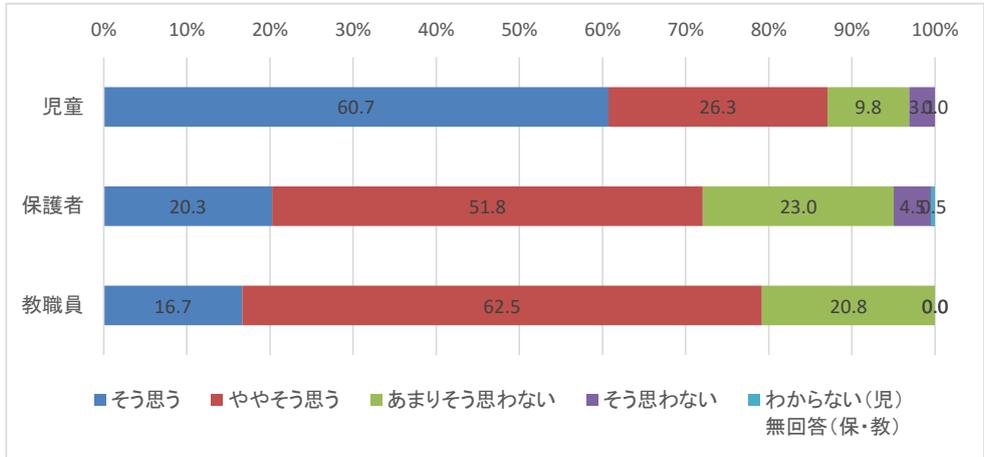
対象	質問事項
児童	友だちと協力して、助け合いながら生活していますか。
保護者	お子さんは、お互いを認め合い、自他を大切にできていると思いますか。
教職員	児童は、お互いを認め合い、自他を大切にできていると思いますか。



児童、教職員ともに、肯定的な捉えをしている。児童・保護者の評価は昨年度とほぼ変わらないものの、教職員の評価はやや高まっている。コロナ禍にありながら、学級の当番や係の活動で協力し合ったり共に楽しんだりする機会を大切にし、そのような姿を積極的に評価してきた結果であろう。これからも、感染拡大防止を最優先に考えながら、子どもたちが互いに助け合い、励まし合い、認めあえる活動を工夫し、連帯感を一層高めていきたい。

⑤【やり抜こうとする姿勢】

対象	質問事項
児童	どんななこともあきらめずに、最後まで取り組んでいますか。
保護者	お子さんは、何かに取り組むときに、見通しをもって最後までやりぬくことができると思いますか。
教職員	児童は、何かに取り組むときに、見通しをもって最後までやりぬくことができると思いますか。

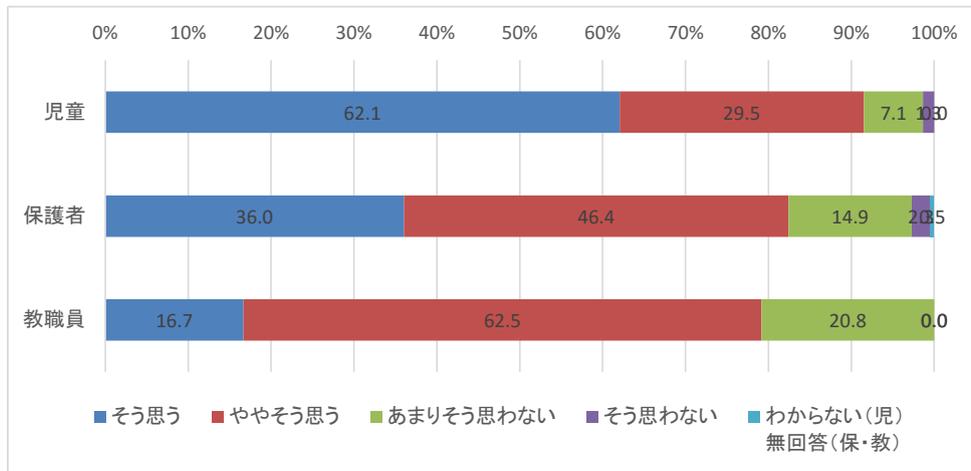


児童・保護者は昨年度とほぼ変化はなく、教職員の評価が下がる結果となった。取り組んだ結果のいかんを問わず粘り強さを求めることと、最後まで取り組んでいるかでは問うている内容にちがいがあがるものの、児童自身の「がんばっている、あきらめていない。」という感じ方と、保護者・教職員の「もう少しがんばってほしい。」という思いの違いがあらわれたものであろう。

達成感を味わわせることとはもちろん、到達点に対してどのようなプロセスで取り組んでいけば良いかを考えさせるなど、「見通し」というキーワードを大切にしたい。そのためにも、児童の「あきらめていない」という思いを大切に、どのように取り組もうとしているかという部分も評価しながら、より高みを目指し取り組もうとする姿勢を身に付けさせたい。

⑥【規範意識】

対象	質問事項
児童	きまりや約束を守っていますか。
保護者	お子さんは、きまりや約束等を守っていると思いますか。
教職員	児童は、学校のきまりや約束を守って生活していると思いますか。

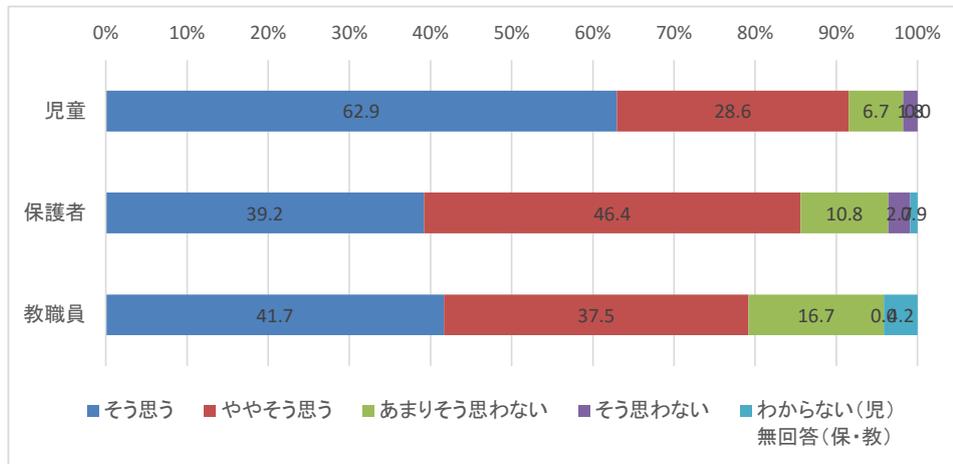


昨年度までと変わらず、児童のほとんどが肯定的に感じているのに対し、保護者・教職員とも否定的な回答がやや多く見られている。児童としては、チャイムを守ったり、先生の指示はしっかり聞いていると感じていたり、できていることに自信が持っていると考えられる。一方、教職員は、学校生活のきまりのみならず、登下校の在り方や、タブレットの使用の仕方、放課後の過ごし方など、善悪の判断をしっかりとし、正しいことをやり遂げる力の高まりに期待をしながら指導し、児童に守らせたいさまざまなルールやきまりが一つ一つしっかりと守れているかを判断している。また、保護者としては、家庭内でのルールや約束についても守らせたいと考えてらっしゃるのではないだろうか。

児童の自信を持っているという気持ちを大切にしながらも、日々細やかにきまりやルールを確認し、自己の在り方を見つめさせることで、規範意識を高めていきたい。

⑦【授業について】

対象	質問事項
児童	授業は、わかりやすいですか。
保護者	教師は、わかりやすい授業をしていると思いますか。
教職員	授業内容を工夫し、児童が理解しやすい授業づくりに努めていますか。

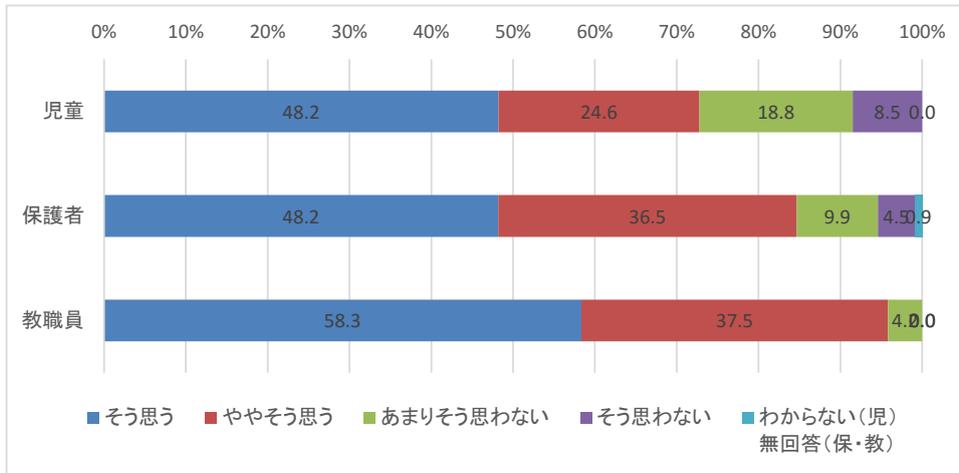


教職員の肯定的な回答より、児童・保護者のそれが上回る結果となった。本校では、研究主題を「豊かに思考し、表現する児童の育成 ～思考の流れを整理し、根拠を明確にもたせる学習活動を～」と設定し、基礎的・基本的事項の定着を図ることはもちろん、児童に考えることや伝えることの楽しさ、相手の考えを理解しようとする事の大切さを学ばせるようにしてきた。その思いが児童に「授業が楽しい」と感じさせることにつながったと思われる。しかしながら、コロナ禍で話し合い活動の仕方の工夫や、学び会う機会の保障の在り方など、教職員としては試行錯誤の連続であった。また、一人1台の端末が導入され、児童は使用すること自体を楽しんでいたようにも思われる。しかし、タブレットの使用の方法についても、より効果的な活用方法やルールに則って使用させる方法などについて思案することも多くあった。

教職員の評価が昨年度よりやや下がっているのは、そういった部分で、もっと良い授業ができたのではないかと、もっと工夫すべき点があったのではないかとという反省のあらわれでもあるといえよう。児童・保護者の肯定的な回答に甘えることなく、これからもよりよい授業づくりに邁進していきたい。

⑧【児童と教師、家庭と教師の相互理解】

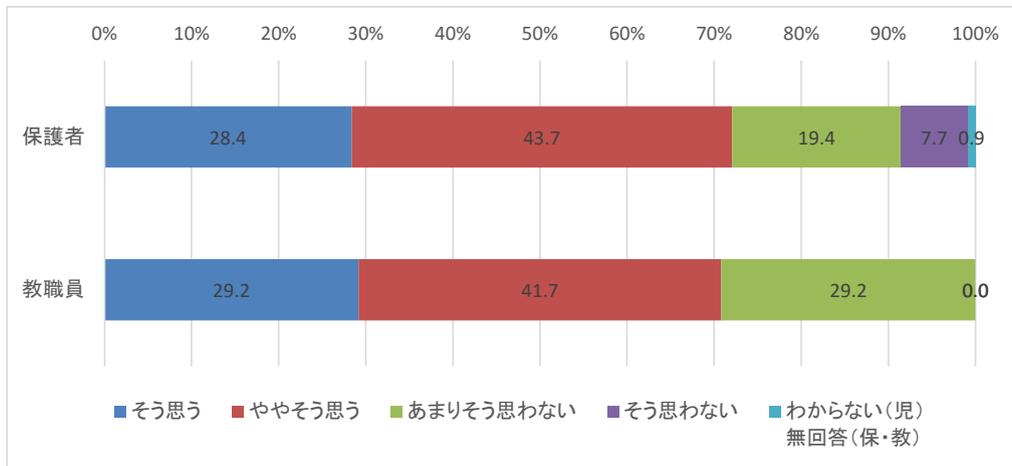
対象	質問事項
児童	なにかあったら、先生に相談することができますか。
保護者	教師は、児童や保護者からの相談に応じていると思いますか。
教職員	児童や保護者からの相談に応じていると思いますか。



児童・保護者の肯定的な回答が昨年度よりやや上昇したものの、教職員が相談に応じていると肯定的に捉えているのに対し、児童・保護者の否定的な部分がやや目立つ結果となった。コロナ禍において、家庭訪問や学級懇談会などの中止が余儀なくされ、保護者と話したり情報を共有したりする機会の減少も一因にあるのであろう。日頃から児童一人ひとりと話をする機会を意識的にもったり、児童の様子を観察し、教職員から声をかけていったりすることで、相談しやすい雰囲気作りに努めたい。

⑨【情報公開】

対象	質問事項
児童 保護者	(質問事項なし) 学校は、各種たよりやホームページ等を通して、家庭に学校の情報を伝えられていると思いますか。
教職員	本校は、各種たよりやホームページ等を通して、家庭に学校の情報を積極的に伝えていると思いますか。



保護者・教職員双方が不十分であると考えている。2学期以降ホームページが新しくなり、随時更新するようになってきたが、十分な活用に及んでいないところである。これからもホームページを積極的に活用し、常日頃の取組を保護者にお知らせし、学校の様子や子どもたちの活動を知っていただくことが学校への信頼につながることを意識して、今後、一層の情報発信に努めたい。